根研究会新役員の紹介

2006 年 1 月 1 日より新しい期が始まり，小柳敦史新会長のもと，新しい評議員会，編集委員会，監査が発足しました．ここに新役員をご紹介します．会員の皆様には，ご協力のほどよろしくお願いいたします．

なお，今年度の連絡・問い合わせ用のメールアドレスは，事務局長：neken2006@jsrr.jp ，編集委員長：editor2006@jsrr.jp です．

根研究会　2006－2007 年度　執行部

会長

・小柳敦史（東北農業研究センター＊）

水に弱いコムギの根系を改良して過湿な水田での生産性を高め、食料自給率を向上させるのが目標です。コムギの品種には耐湿性に違いがみられないので、最近は田んぼのあぜに生えているコムギに近い雑草の根を調べようとしています。

副会長

・ 唐原一郎（富山大学理学部） 編集委員兼任

カスパリー線に着目し根の組織分化の仕組みを研究しています。微力ながらも皆さんのお役に立ちつつ、自分も勉強できればと思っています。秋の集会では、皆さん万障お繰り合わせの上、富山にいらして下さい！

・中野有加（野菜茶業研究所＊）

果菜類の養液栽培による安定生産技術に関する研究をしています。根研究会がますます活気のある情報交換の場になるよう、お役に立てれば幸いです。

事務局長

・阿部　淳（東京大学大学院農学生命科学研究科） E-mail: neken2006@jsrr.jp

従来はイネを中心にイネ科作物の根を調べていましたが，近年は，園芸作物や乾燥地の野生植物などにも興味を持っています．事務局長として，いたらぬ面も多々あるかと思いますが，ご協力のほど，どうぞよろしくお願いします．

根研究会　2006－2007 年度　評議員（５０音順）

・荒木英樹（山口大学農学部）

根の研究の真価を明示するためには「基礎研究レベルにとどまる基礎研究」を超えた基礎研究が

必要であると考えています．任期中には，乾燥や湿害に強い根っこづくりをキーワードに，その一例を提示できればと考えています。

・伊藤博武（東京農業大学生物産業学部）

生産現場での課題を採り上げ、気象、土壌、根系および生育の視点から原因を解明し、対策方法の構築を目指している。研究の舞台は現実の生産現場（圃場）である。生産者とのコミュニケーションを大切にしている。

・大橋瑞江（Finnish Forest Research Institute）

フィンランドで森林土壌圏の炭素・養分循環に関する研究をしています。樹木根・微生物・土壌動物など地下部の生物要因に起因した物質の移動と、それが森林の環境形成に及ぼす影響に興味を持っています。根研究会の活動を通して、未だ発展途上にある樹木根の研究の進展に寄与することができれば幸いです。

・大橋善之（京都府丹後農業研究所）

現在、水稲の品質向上、黒大豆、小豆の生産性向上に関する栽培試験をしています。作物の品質や生産性の向上に対して根がどのような役割を果たしているのかに興味があります。

・河合義隆（東京農業大学農学部）

現在の根に関する研究は、菌根と不定根形成の２つをテーマに取り組んでいます。根の世界には興味深い事が多々あります。根研究会で掘り起こしていきたいと思っていますので宜しくお願いします。

・ケネディ（赤坂）庸子（岩手大学農学部）

油糧作物における「実」を対象とした分子育種を行っており、「根」からは少し遠ざかっておりますが、植物における根の重要性は常日ごろ感じております。今後ともよろしくご指導お願いいたします。

・近藤始彦（作物研究所＊）

イネの収量性と高温耐性の生理、品種間差異機構の研究をしています。いずれのテーマも最後にキーポイントは”根”と””土壌”に行き着くと思います。根の研究会を通じて”根好き”の皆さんと切磋琢磨させていただければと思いますのでよろしくお願いします。

・佐藤　忍（筑波大学生命環境科学研究科）

根研究会にはいつも参加できるわけではないのですが、普段聞く事のできない農学分野の先生方の根にまつわるお話を聞けるので楽しみにしています。研究テーマは導管液および細胞壁（ペクチン）に関する生理学・分子生物学です。幅の広い研究を目指しているものの、なかなか思うように進まないのが悩みです。よろしくお願いします。

・下田代智英（鹿児島大学農学部）

ここ数年は「西南暖地における水稲の根系活力と登熟について」というテーマを主に研究に取り組んでおります。研究会への出席のほか、いろいろな面で研究会に積極的に関わり、貢献していきたいと考えております。

・巽　二郎（京都工芸繊維大学生物資源フィールド科学教育研究センター）

最近，根の研究領域がますます拡大していることを実感します。「木をみて森を見ず」といいますが科学の発展が「森をみて根系を見ず」とならぬよう，いっそう足下をみつめつつ努力したいと考えています。

・中野明正（農林水産省技術会議事務局）

根の無い作物は有りません．農業全般について，根は共通の基盤的研究素材になると思います．誠にユニークな本誌に引き続き関われることを感謝するとととともに，世界に発信できる日本の先端的な根の研究成果を本ジャーナルから発信できることを期待しております．

・仁木輝緒（拓殖大学工学部）

根の生理、形態変化すなわち、湛水による低酸素濃度状態と低酸素濃度空気の曝露によって起こる生理的、形態的変化を調べています。材料はエンドウですが、イネ科植物もトライしています。

・二瓶直登（福島県農業試験場）

現場の農業と学問としての農学の間を埋める仕事をしたいと考えています。研究内容としては、植物は肥料を求めて根を伸ばすか、根は有機態窒素を吸収できるのかなどに興味をもって研究しています。

・松浦朝奈（九州東海大学農学部）

主に雑穀の乾燥・塩類・過湿ストレス耐性機構の解明と，熊本県の中山間地域の農家圃場における雑穀の生産性向上に取り組んでいます．今後ともどうぞよろしくお願いいたします．

・間野吉郎（畜産草地研究所＊）

耐湿性トウモロコシの育種を行っており、現在テオシントの持つ根の通気組織形成能を支配する遺伝子などを DNA マーカーを使ってトウモロコシに導入することを進めております。どうぞ宜しくお願いいたします。

・村上敏文（東北農業研究センター＊）

昔、電子レンジで土を煮て、根と土を分けるという方法を思いつきました（HP で公開中）。最近は、根を染色液で染めて識別する方法を思いつきました。今度は、何を思いつこうか・・・と、いきあたりばったりな研究生活を送っています。だいぶ目もかすんできて、細い根を見るのがつらい今日この頃ですが、志だけは高く、一発当てるぞと（何を当てるのかよくわからないが）密かに思っています。

・村中　聡（International Institute of Tropical Agriculture: IITA）

サヘル地域の主要マメ科作物であるCowpea(ササゲ)の耐乾性と、その作付け体系の効率化について研究を行っています。このテーマ、根の役割はまだまだブラックボックスですが、どんどん解き明かしていきます!!

・山口淳二（北海道大学先端生命科学研究院）

イネ根における窒素取込の研究をしていたのですが、現在はシロイヌナズナを用いた植物免疫・プロテアソーム機能・形態形成の研究を進めています。ずっと炭素・窒素代謝に興味を持っており、今年は根における上記代謝制御ネットワークの研究を進めていこうと思っています。根研究会は、ご無沙汰気味ですが、いずれ復帰しますので、宜しくお願い申し上げます。

・山下正隆（九州沖縄農業研究センター＊）

現在は、園芸作物を中心に根系形成と機能を調べています。イチゴの極少量培地栽培では、小さな空間への根の適応力に驚かされつつ、それを栽培にどう生かそうかと頭をひねっているところです。作物の根の生育、機能を最大限に発揮させて新しい栽培技術へどうつなぐか、会員の皆様の根に関するユニークなアイデアを期待しています。

・渡邊　肇（東北大学大学院農学研究科）

水稲直播栽培における初期生育の促進について，幼植物の形態・生理学的側面から，また実際の圃場試験で検討しています．作物栽培上重要である，作物-土壌の相互作用についても検討しています．その意味から，作物が土に触れる，根については大変興味があります．微力ながらお役に立ちたいと思います．どうぞ，よろしくお願います。

＊は，独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構の研究所です．

根研究会　2006－2007年度　編集委員会

編集委員長

・犬飼義明（名古屋大学大学院生命農学研究科）　E-mail: editor2006@jsrr.jp

イネの根系がどのような遺伝子によって形作られているのかについて解析しています．編集の仕事を通して、様々な分野の方と交流し、いろいろな角度から根の研究を見ていきたいと思います。

編集委員（５０音順）

・明石　良（宮崎大学農学部）

この度、編集委員を担当することになりました。どうか宜しくお願い致します。現在、私はモデ

ルマメ科植物のミヤコグサにおけるバイオリソースの中核機関を運営しており、国内野生系統および根の形態・生長に関する変異体やゲノムリソースの収集・保存・提供等を行っております。根研究会の皆様で興味のある方は、遠慮無くお申し下さい(http://www.legumebase.agr.miyazaki-u.ac.jp/)。

・有馬　進（佐賀大学農学部）

イネ・ムギ・ダイズ・イモなど普通作物の生産に関連する根系の形態や機能に興味があります。また、今年度から学科改組で生物環境科学科に属しましたので、根系と環境がキーワードになる仕事ができないかと考えております。

・伊藤　治（国際農林水産業研究センター）

研究所の目的が海外の開発途上地域での農業分野における共同研究であるので、主に不良環境地域を対象にした生産性並びに収益性の向上に向けた研究を行っています。このような地域では根に起因したストレスによる生産障害が多いので、根研究会の活動には大きな期待を抱いていると共に、微力ながら何かお手伝いができればと願っております。

・柏木純一（International Crops Research Institute for the Semi-Arid Tropics: ICRISAT）

2000年に現職に着任以来、マメ科作物の根系と乾燥抵抗性の関係について調査してきました。今後はインドで得られた結果が、他の乾燥条件下でどのように機能するのか調査して、根系研究・育種が重要となる地域を特定して行きたいと考えています。根研究会には学生の頃からお世話になっております。みなさまの海外研究のための情報発信を通じて会の発展に貢献できればと思います。

・唐原一郎（富山大学理学部）　副会長兼任

・且原真木（岡山大学資源生物科学研究所）

もともと植物の耐塩性機構に興味をもって仕事を始めました。イオン輸送から現在は水輸送に焦点を移しつつ、最近はオオムギの根を主な研究材料としています。楽しく活動的なこの会がその方向でますます発展・展開することを期待しています。

・作田千代子（農業生物資源研究所）

導管液の解析、ファイトレメディエーション、マイクロダイセクション、機能性食品（コメ）の開発とその基盤研究など様々な課題に取り組んでおります。大学院時代から現在に至るまで、根研究会の和やかな雰囲気と分野を超えた交流の中で多くのことを学ばせていただき感謝しております。今回のことで根研究会の発展に微力ながらお手伝いできればと思っておりますので、いたらない点も多いと思いますがよろしくお願いいたします。

・島村　聡（作物研究所＊）

ダイズの耐湿性に関する研究を行っていますが，低酸素ストレスに対する根の形態適応反応は，

特に興味深いテーマです．「根研究会」の発展に微力ながらお役に立てたいと思います．

・谷本英一（名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科）

2002～2005 年会長在任中は皆様のご協力ありがとうございました。今期も，根の研究の編集や事務のお手伝いなど本会の運営に協力させて頂きます。研究は引き続き，エンドウ，アラビ，チャノキなどの根を使って成長と細胞壁の関係を追っかけていきます。「根」をキーワードに，広い分野の研究交流が進むことを期待しています。

・辻　博之（北海道農業研究センター＊）

最近根に関する研究や情報収集に割ける時間が減りつつあるなか、研究会や「根の研究」の役割の大きさをさらに実感するようになりました。

・菱　拓雄（京都大学大学院農学研究科）

樹木細根の形態構造と生態系物質生産の関係について研究してきました。現在は土壌生物と根の成長様式の関わり合いを研究しています。地面の下に隠された多様な生物たちの関わり合いを少しでも解明できればと願っています。地面の下に隠された秘密になんとか迫ろうとする本会の発展に少しでも協力できればと考えています。

・松尾喜義（野菜茶業研究所＊）

チャの研究をここ 15 年してきました。国立の農業研究機関も非公務員化し従来以上に「存在理由」が問われています。公立の農業試験場はじめ埋もれている仕事を掘り起こすことを心がけたいと考えています。

＊は，独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構の研究所です．

監査

飯嶋盛雄（名古屋大学大学院生命農学研究科）

監査を仰せつかりました名古屋大学の飯嶋です。最近、海外出張が多く、とくに秋の根研究会シ−ズンは南半球での雨季の作付けシ−ズンにあたるため、研究会には参加できずに足が遠のいていますが、できるだけ参加するようにしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。